

～ワタシ達が社会に出るには何が要るの？～ 「重度身体障害者の過去・現在・未来」

イベント名：日本リハビリテーション工学協会関西支部シンポジウム
主催団体：日本リハビリテーション工学協会関西支部
開催日時：2018年5月26日（土）13:30-16:30（開場13:00）
開催場所：大阪府社会福祉会館5階503室
（〒542-0012 大阪府大阪市中央区谷町7丁目4-15）

司会：氏名：剣持 悟（川村義肢株式会社／
日本リハビリテーション工学協会関西支部）
講師：氏名：村田恵子氏（NPO法人京都頸髄損傷者連絡会会長／
DPI女性障害者ネットワークメンバー
DPI日本会議特別常任委員）
氏名：古井正代氏（脳性まひ者の生活と健康を考える会代表）
氏名：田上 香氏（株式会社キキウエル／
ユニバーサルサービスアカデミー）
コーディネータ：杉本昌子（パシフィックサプライ株式会社／
日本リハビリテーション工学協会関西支部）

参加者数：33人

（参加費 1,000円:14名 500円：8名 無料:8名）



村田氏より、複合差別について、特に障害を持つと、男性・女性ではなく障害者になってしまう事の問題について話がありました。古井氏からは自身が障害を持ちながら、両親の介護の経験から、いずれ多くの方が障害者になるので、障害を持つ先輩の言葉に耳を傾けてほしいとのお話がありました。田上氏からは、夫婦ともに車椅子使用者で暮らす住まいの工夫や暮らし方について話がありました。

パネルでは、病院や福祉施設等での異性介助の問題や体育館等の家族用更衣室の設置等、障害を持つと性差が軽視される傾向にまだあるように感じられるといった課題について議論がなされました。また、介助の場面等において、障害当事者自身も様々な場面で自分の意見を言葉にしていく事が重要とのお話でした。

アンケート結果 (アンケート回答者/参加者 13/22 (約60%))

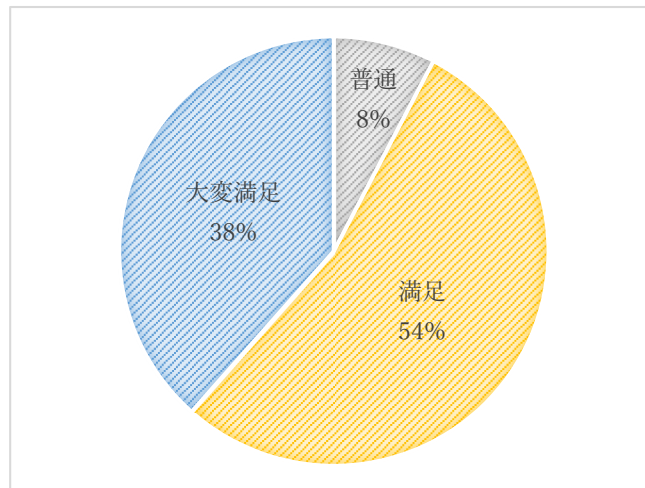
回答者 会員 2名 非会員 11名

参加者種別 (複数回答あり)

| | | | |
|------------|----|---------|----|
| ・福祉用具関連事業者 | 3名 | ・医療・福祉職 | 3名 |
| ・車椅子使用者 | 3名 | ・学生 | 1名 |
| ・その他 | 4名 | ・無記名 | 1名 |

満足度 (5段階評価: 平均4.3点、満足度約86%)

・不満 0名 ・やや不満 0名 ・普通 1名 ・満足 7名 ・大変満足 5名



セミナーの感想 (順不同)

- ・私はこのようなシンポジウムに参加させていただくのは初めてで、障害のある方の話を聞くことも滅多にありませんでした。そして今回参加させていただき1番に思ったことはとても自分らしく生きているなということです。私は人見知りで人と話すとき頭が真っ白になってしまいます。そのような自分と比べると私よりもよっぽど健常に生きられているのではとも思いました。しかし、古井さんが最後に言った「我慢をすると自分が生きているのではなくなる」という言葉を聞き、とても心を打たれました。そういった意味も含めて、今回のシンポジウムに参加させていただいたことはとても良い経験となりました。
- ・今回すごく貴重なお話を聞くことができました。ありがとうございました。村田様のお話の中で、「女性らしくや男性らしくという考え方」が社会に多いという部分は私も感じています。講師の方達の力強い生き方を聞き、私にも何かできること、変えることを少しずつでも考えようと思えました。
- ・特別な事ではなく身近な問題。でも話し合っ色々考えることができたので参加してよかったです。
- ・福祉用具活用人生術、というテーマとは少し論点が変わっていた気もしますが、これはこれで重要なテーマだと思いました。ありがとうございました。
- ・それぞれの講師の方のお話、とても良かったです。わかりやすく楽しく上手にまとめて語っていただきました。
- ・バリアフリー住宅の講演内容はすごくよかったです。今後の参考にしたいなあと思うことが、沢山ありました。